

「神のシャローム・プロジェクト」

（エレミヤ書 29：1-14）

イントロ

1. 南野浩則訳『シャローム～神のプロジェクト』（ベルンハルト・オット、2017年）
2. 「シャローム」の意味
 - （1）「平和」
 - （2）名詞「シャローム」は動詞「シーレーム」の派生語で「支払う」
 - （3）支払いが終わって負債がなくなっはじめて「シャローム」が実現する
 - （4）ヘブライ語の挨拶「シャアール・シャローム」は単に平和を願う言葉ではなく、「シャロームはあるでしょうか？それとも支払うべき負債はまだ残っていますか？」という問いかけであり、言い換えれば「私とこのように会っても大丈夫ですか？それとも私はまだあなたに負債がありますか」
 - （5）負債がある限り、シャロームすなわち平和は訪れない。
 - （6）オットは「『シャローム』とは、人間生活において物事があるべき姿にあること」
3. 今日は「シャローム（神の平和）に生きるとはどういうことなのか」についてエレミヤ書 29 章を通して考えてみましょう。

本文

1. バビロンに捕囚となっている民に向けての神の言葉
2. 29章の構成
 - （1）4つのグループの運命
 - ① すでに捕囚となっている人々（10-14）
 - ② これから捕囚となる人々（15-19）
 - ③ バビロンにいる偽預言者たち（20-23）
 - （2）勧告（4-9）
 - ① できるだけ通常の生活を追求し
 - ② 神に従順であり
 - ③ 捕囚の生活が長引いても神の解放を待つ
 - ④ シェマヤへの使信（24-32）
3. 前半の「3つの神の言葉」に注目
 - （1）4-7節
 - ① バビロンでの生活
 - ② バビロンの町の平和を求め祈れ（7）
 - （2）8-9節
 - ① 預言者や占い師にごまかされるな
 - ② 理由＝偽りの預言者だから/私はそのようなものを派遣していない

(3) 10-14 節

- ① バビロンは70年後に滅び、あなたがたは解放される。
- ② イスラエルへの帰還
- ③ 神の計画 (11)
 - ・わざわざではなく、平安 (平和) を与える計画
 - ・将来と希望を与える計画
- ④ 条件 (12-13)
 - ・イスラエルの民が、神に呼びかけ、行き、神に祈る
 - ・そうすれば、神が耳を傾ける
 - ・神を探し求める / ・心を尽くして求める
 - ・そうすれば、神を見つける
- ⑤ 神の約束 (14) = 帰還

応答